

REPORTS

9th Joint Student Seminar for Civil Infrastructure オンライン開催

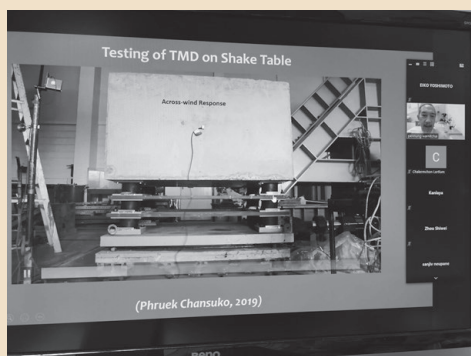
2020年12月8日(火)～10日(木)に9th Joint Student Seminar for Civil Infrastructureがオンラインで開催された。本セミナーは、本所がアジア工科大学院(AIT)に設置しているRegional Office for Urban Safety(RNUS)と共同で、2007年以来タイで開催しているが、今回は初めてオンラインでの開催となった。初日はPennung Warnitchai AIT土木工学科長が「Vibration control of building and structures-an Overview」、2日目は本所 本間 雄大 准教授が「Mathematical Model for Social Distancing-Close relationship with architectural planning」、3日目は本所 竹内 渉 教授が「Geospatial technologies towards one world, one health and earth」と題して講義を実施した。学生セッションは、事前に録画した5分間のポスター発表ののちに、5分間の質疑を行う形で行われた。ネット環境が不安定な国からの接続が心配であったが、chatでの質問がモデレー

ターによってうまく共有され予想以上に学生間での議論が進んだこと、事前に録画することで自分の発表を短時間に伝える工夫と努力が見られたことは、オンライン開催のメリットであると思われた。参加者の国籍は実に多様で、タイ、日本、ミャンマー、インド、スリランカ、カンボジア、ペルー、エジプト、インドネシア、ネパール、中国、韓国、フィリピンの13カ国から36名の学生の発表があり、聴講を含めた3日間の参加者は132名であった。タイ周辺のアジア諸国では、社会インフラ整備が着実に進む中、大気汚染や林野火災をはじめとした環境問題に対する社会の関心が高まりつつある。ICUS(都市基盤安全工学国際研究センター)が中心になって進めてきた生研タイオフィスの活動は、今後は国際産学連携室などと連携しつつ、全所的な活動へと貢献できるように進めていく所存である。

(人間・社会系部門 教授 竹内 渉)



学生セミナー集合写真



Prof. Pennung 発表



AIT 会場の様子